授業の目的と到達目標の書き方について

共通教育ユニット

この文書では、授業の目的と到達目標を記述する際に使用する動詞や基本文型について、2007年に作成された「愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（編） Faculty Development Handbook Vol. 1 もっと！！授業を良くするために シラバス作成から成績評価まで, p.6-8.」をもとに解説します。

「授業の目的」の書き方

・学生が主語となるように書きます。

・当該授業の存在意義や必要性を，下記の表1にあるような複雑な概念を持つ動詞や総括的な概念を持つ動詞を用いて記述します。

表1　授業の目的を記述する際に使用する動詞の例

知る	認識する	理解する	感ずる	判断する
（価値を）認める	評価する	位置づける	考察する	使用する
実施する	適用する	示す	創造する	身につける

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（編）（2007, p.6）

（例）

身の回りの自然について幅広く興味を持ち、また理解を深めることは、行動のあり方や生活のあり方などを見つめ、暮らしを豊かにするために重要である。この授業では、地球の姿や変遷について理解を深め、長期的な視点を含めて大地の変化を考える。また、身の回りに存在する岩石や化石についても知識を身につける。こうした大地の理解と合わせて、地盤災害に関わる日本列島の特徴（地球科学的な側面）を知る。

「授業の到達目標」の書き方

・学生が主語となるように書きます。

・一つの文章に一つの目標を書きます。

・下記の表 2 にあるような行動観察が可能な動詞を用いて「～できる」という形式で書きます。これらは成績評価の指針となります。 なお、「理解する」「身につける」のような概念的な表現は、行動観察が困難なため、到達目標の記述には適切でありません。

（到達目標の達成状況が判断しにくい表現）

➡ × 「印象派絵画について感受性を高め、作品への理解を深める。」

（到達目標の達成状況を判断しやすい表現）

➡ ○ 「印象派絵画の芸術的価値について、1980 年までの通説と 1990 年以降の通説の違いを踏まえて、説明することができる。」

表2　授業の到達目標を記述する際に使用する動詞の一覧

項目	動詞
知識	列挙する，復唱する，定義する，列記する，識別する，引用する，想起する，同定する
理解	述べる，説明する，言い換える，要約する，翻訳する，議論する
応用	適用する，解く，使用する，利用する，操作する，用いる
分析	調べる，分析する，計算する，分類する，比較する，対照する，批判する，類別する， 区分する，弁別する，検証する，問を立てる，検討する，分離する，順序だてる， 関連づける，選別する，分解する，推論する
統合	編成する，組み立てる，集める，構成する，構築する，創造する，計画する，開発する， 組織立てる，管理する，編成する，準備する，提案する，書き換える，統合する，概括する
評価	評価する，正当化する，論争する，鑑定する，査定する，弁護する，判断する，予測する， 支持する，評価する，推奨する，説得する，結論付ける
技能	準備する，模倣する，動かす，表現する，演奏する，操作する，行う，援助する，助ける
受容・ 価値化	参加する，配慮する，応える，承認する，協調する，寄与する

出典　中島（2016）及び Bloom et al（1956）の類型論を参考に一部改変（和訳を含む）

引用文献

1）Bloom, B. S., Englehart, M. D., Furst, E. J., Hill, W. H., & Krathwohl, D. R. (1956). Taxonomy of educational objectives, handbook I: the cognitive domain. New York: David McKay Co.

2）愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（編）（2007）『Faculty Development Handbook Vol. 1 もっと！！授業を良くするために　シラバス作成から成績評価まで』, p.6-8.

3）中島英博（編著）（2016）『シリーズ　大学の教授法1　授業設計』 第2部6章「シラバスを作成する」, p.60-62, 玉川大学出版部.